

八峰町の地域活性化へ向けて ～地域おこし協力隊に鈴木了さんを任命～

「石」って何？

八峰白神ジオパークを立ち上げ、運営していく為には、どうしても「大地の研究」が欠かせません。普段何気なく使っている言葉でも知っていましたか？
例えば「水」は石の仲間でしょうか？



写真2 岩石を切った表面

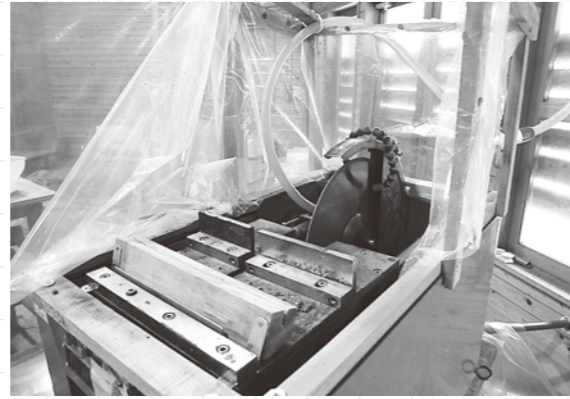


写真1 岩石カッター

石を切る
石の表面を観察しただけではその石の性質や生まれ、育ちがよく判りません。そこで石の中身を調べることがありますが、ダイヤモンドで切るような訳にはいきません。岩石カッター（写真1）で切断します。切断面（写真2）は結晶の大きさや縁の様子がよく判り、その石の経歴が読み取りやすくなります。

切断面を磨く

石の性質にもよりますが、切断面はザラザラしていて白っぽく見えます。細かい部分が観察しにくいのです。そ

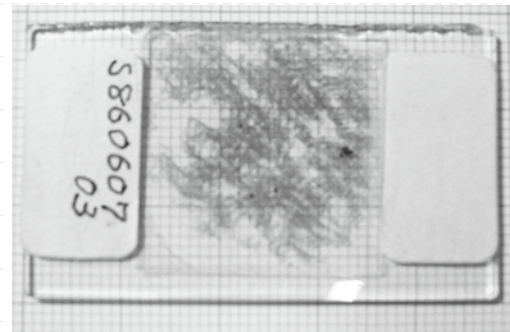


図4 岩石の薄片



図3 岩石を調べる顕微鏡

地質調査をする

地質調査の活動を大きく妨げる大きな原因の一つに植物があります。山地を覆う植物が石を隠してしまうのです。ところが当ジオパークエリアは、当エリアを代表するほとんどの種類の石が海岸で見ることができ、調査しやすい場所となっています。

石の薄片をつくる

さらに詳しく調べるには顕微鏡（写真3）を使わなければなりません。顕微鏡を使うためには石が光を通さなければなりません。そこで石を0.03mmの厚さ（写真4）に作ります。大変な技術を必要とします。

この答えを出すためには「石」という物体をよく知らなければなりません。その方法の一部を紹介します。

ここで、研磨剤を使ってピカピカに磨き、より細かい部分まで観察できます。

鉱物顕微鏡で調べる

できた薄片で石の中身を調べるのですが、初めて見る人はほとんど「アツ！」と声をあげます。それほど美しいのです。ぜひ見たい方はぶなっランド木工芸体験室までおいでください。

たくさんの方々のご協力に感謝

ここまで研究ができるまでには秋田大学をはじめ、新潟大学などの諸大学、会社、ガイドの皆さん、漁師さんたちと多くの方々にお世話になっております。ありがとうございます。
調査・研究の成果はその都度活用してきました。今後とも益々有益に活用していきます。



八峰白神ジオパーク推進協議会
研究専門員 工藤 英美
TEL 0185-26632
秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一
ぶなっランド内
TEL 0185-7713086



1988年生まれ。八峰町八森出身。大阪市立大学卒業後、都内に本사를置く住宅関連会社に勤める。昨年末に退社し、今年1月本町へ移住。上の写真は奥さんと、昨年生まれたばかりの赤ちゃんとの家族写真。



1月12日、八峰町初となる地域おこし協力隊の鈴木了さんに辞令交付を行いました。続いて、鈴木さんから「若者移住者のモデルになりたい」とスクリーンで今後の活動に対する思いが発表されました。
鈴木さんは「移住コンシェルジュ」として、移住に関する情報発信や移住希望者の相談対応などに当たります。
【鈴木さんからメッセージ】
はじめまして、地域おこし協力隊「移住コンシェルジュ」に着任した鈴木了です。八峰町での生活は、約9年ぶりです。「いつかは」戻りたいと思っていたところ、昨年の夏、東京での「八峰町説明会」で役場の方と出会ったことがきっかけとなり、「今こそ」戻ろうと決意しました。現在は単身赴任中ですが、春頃からリフォームを終えた空き家で家族3人での新生活が始まります。改めて八峰町の良さを知り、伝え、若者が戻ってくる町づくりを進めます。よろしくお願ひします！
※地域おこし協力隊：3大都市圏等から過疎地域等に生活の拠点を移し、その地域の活性化に取り組みながら、隊員の定住を図る。

藤田晃平さん(田中)へ 法務大臣感謝状を贈呈

1月25日、元八峰町人権擁護委員の藤田晃平さんへ、長年にわたり人権尊重思想の普及に貢献したとして、法務大臣感謝状が贈られました。
藤田さんは人権擁護委員を平成17年から11年間務め、人権尊重社会の実現に向け活動しました。



高齢者叙勲 瑞宝双光章 須藤隆さん(八森2)が受章

このたび、高齢者叙勲受章者が発表され、元観海小学校校長の須藤隆さんが、秋田県の教育に大きく貢献したとして、瑞宝双光章を受章しました。
須藤さんは昭和23年に観海小学校教諭として勤務して以来、40年にわたり教育行政に力を注ぎました。

